

「(仮称) 個人版認知症ケアパス」作成ワーキングについて

1 経緯と進捗状況

| | |
|------------|--|
| 平成 27年度 | 「仙台市版 認知症ケアパス」の作成 メンバー：当事者・家族・疾患センター・包括など（13名） ワーキング4回開催 |
| 28年度 | 「仙台市版 認知症ケアパス」の普及方法などの検討 「個人版 認知症ケアパス」の事前準備 メンバー：当事者・家族・疾患センター・包括・医師など（18名） ワーキング3回開催 |
| 29年度 | 「個人版 認知症ケアパス」の作成 メンバー：当事者・家族・疾患センター・包括・医師など（23名） ワーキング4回開催予定（うち3回終了） |

2 「(仮称) 個人版認知症ケアパス」のイメージ

| | |
|------|---|
| 誰のため | 認知症かもしれないと悩んでいる方 診断された方（特に診断間もない方） |
| 何のため | ・ 本人の思い・価値観・個性・歴史等を、家族・支援者と共有する ・ できないことではなくできることに目を向けられるように ・ 地域社会の中で本人のなじみの関係が継続できるよう支援 |
| 内容 | ・ 先に診断を受けた本人の声 （ネガティブな気持ち、ポジティブな気持ち両方とも） ・ 暮らしやすくする工夫・相談先 ・ 自分の気持ち・やりたいことを記入するページ |

具体的内容・形式・配布方法等について、ワーキングで検討しています。

ワーキングでは、まず、当事者より「個人版ケアパスに期待すること」、専門医より「作成にあたって心がける事・認知症の人と家族の権利、合理的配慮」などについてお話しいただき、その後グループに分かれて、自分が診断されたら、自分が前向きな気持ちになるには、ケアパスに盛り込みたい内容などについて、話し合いを行っている。

3 ワーキング参加者の声（グループワークで出た意見・アンケートより抜粋）

【気づき】

- ・（本人の）拒否、怒りなど外部に出せない感情を発散することの重要性を再確認できました
- ・家族と当事者が話すきっかけになるようなツールにという視点はなかったのでとても印象に残りました
- ・認知症であることを必ずしも全てオープンにすることはないということ、はっとしました
- ・どのようなケアパスができるのかわくわくしました。やはりほかの人の意見で気づくことは大きいです

【本人目線】

- ・ご本人が使うということを強くイメージしたいと思います
- ・作っている人の自己満足にならないようにと思っています
- ・本人の気持ちになり考えることがどれだけできたか？できれば毎回確認したいところです
- ・エキスパートは当事者。本人抜きに本人の話をしない。認知症を見るな、人を見よ

【目指すところ】

- ・権利と、それが実現されるための周囲の責任について、当事者が自由に権利を主張でき、周囲がその実現のために変化する。個人版ケアパスがそのためのツールとなればと思います
- ・このワーキングの中で本当に当事者の力となるケアパスを作っていきたいと思います
- ・仙台市独自のより当事者に寄り添ったケアパスを作っていきたいです

【その他】

- ・グループワークで出た意見が大変勉強になりました
- ・今後もみんなで作り上げていくプロセスを大事に